

アステン流 大人ドリル

# 淑女検定

☑ チャレンジテーマ

## しの笛

祭りばやしで甲高い音を響かせる  
しの(簫)笛。奏者の息遣いによつて  
さまざまに表情を変えるのも  
特徴で、心に染み入る音色は郷愁  
を誘う。何かを始めたくなる春。伝  
統楽器のお稽古はいかが。



問題 1 しの笛は  
何で作られている?

- A. 細い種類の簫竹
- B. 生え始めの真竹
- C. 簫という木の枝



問題 2 美しい音色に  
あまり関係のないものはどれ?

- A. 姿勢
- B. 経験
- C. 目力



問題 3 聴き手のマナーとして  
ふさわしいのは次のうちどれ。

- A. 手拍子を打つ
- B. 立ち上がって拍手
- C. 拍手を送らない

SBS学苑  
バルシェ校

今月の  
先生



【しの笛】講師

志紅 しこう

現代邦楽会みさと笛練士

素朴な音色で深い味わいのある「しの笛」。

心に響く日本特有の音色を大切にしながら楽しい講座を開催  
(グループと個人でのレッスン有)

### 正解 & 解説

問題 1

→ 正解 A

しの笛は簫竹という細い竹で作られる。すらっとしていて節と節の間が長い。成長が止まる11~12月ごろに取り、数年間寝かせて水分を飛ばしてから細工する。指穴の数は基本的に6~7孔だが、地域によって違うところもある。「江戸時代、各地でお祭りが始まり、自分たちで笛を作るようになりました。しの笛は今でも各地にたくさん種類があるんですよ」と志紅先生。

問題 2

→ 正解 C

しの笛は吹けばすぐいい音が出る楽器ではない。まずは基本姿勢から。フルート同様、右に構えて顔は真っ直ぐ正面に。下半身はやや右に向ける。本来は正座や立ち姿勢で吹くが、椅子の場合は背もたれを使わず浅めに腰掛ける。初心者は鏡を見ながら練習を。西洋楽器のように均一な音が出ない日本の笛。奏者の力量によって、音程や音質が異なる。「ただ吹くのではなく、笛と息を合わせます」と志紅先生。

問題 3

→ 正解 C

演奏が終わっても、「拍手を送らない」というのが好ましいマナー。拍手は明治期に西洋から入って来た文化。立ち上がって拍手するのも西洋の習慣から来ている。志紅先生は「演奏後の拍手は不要なんです。音が消えた後のふうとした空間や余韻を堪能していただきたいです」と話す。西洋音楽のような定期的なリズム感はなく、独特の「間」も大事にする。音色と間と余韻で幽玄な世界を堪能したい。

SBS学苑 バルシェ校  
INFORMATION

5/10(日) 13:30~15:00

辞世のうた  
~時空を超える先人たちの魂~  
受講料/2,970円(税込)  
管理運営費/110円  
講師/田中 章義(歌人・作家)  
先人たちの「辞世のうた」に込められた万感  
の思いや魂のメッセージを読み解きます。  
【お問い合わせ・お申し込み】  
Tel.054-253-1221